

11 真砂小学校におけるプリシード・プロシードモデルを応用した 歯科口腔衛生指導プログラムの検討

○本間 和代¹⁾, 木暮 ミカ²⁾, 和田 麻衣子¹⁾, 幸田 奈美¹⁾, 佐藤 裕子¹⁾

(¹⁾ 歯科衛生士学科, ²⁾ 歯科技工士学科)

【目的】従来, 学校歯科保健指導は指導教員が知識を持たない児童に一方的に伝授するtop-down方式の指導に終始してしまうのが一般的であるが, 今回真砂小学校の歯科保健指導を行うにあたり, 1991年にアメリカのローレンス・グリーンによって開発されたプリシード・プロシードモデルを応用し, 学童期の齲蝕・歯肉炎対策に効果的なbottom-up方式の歯科口腔衛生指導プログラムを検討したので報告する。

【方法】

- ・対象: 新潟市立真砂小学校二年生76名, 四年生78名, 五年生77名の計231名
- ・期間: 平成17年5月~11月
- ・方法: ①Precede part (第1段階~第5段階) 春の集団歯科検診実施後に児童の保護者(総家庭数n=376)に対して, 学校歯科検診と歯科衛生指導に関するアンケート

トを実施し, その結果を踏まえて学校保健委員会で学年担当および養護教員, PTA会長などからフォーカス・グループ法により歯科衛生指導内容に関するヒアリングを行った。春の歯科健診の結果より算出された齲蝕有病者率とヒアリングで出された意見から, QOLや健康問題, それらに影響を及ぼす準備・強化・実現因子など, モデルを構成する因子を抽出し, 取り組むべき因子を決定した。②Proceed part (第6段階~第9段階) Precede partで地域診断に基づいて企画された歯科保健指導を実施した後, アンケートによる結果について評価した。

【結果と考察】プリシード・プロシードモデルを応用して歯科口腔衛生指導プログラムを策定し, 実施・評価を行うことはヘルスプロモーションの実践に有効であることが示唆された。

12 歯科技工士学科における学生参加型授業「歯科口腔介護」

○野村 章子, 本田 岳史 (歯科技工士学科), 江川 広子 (歯科衛生士学科)

【目的】歯科技工士教育では, 技工技術の習得とその基礎学問を学ぶことに加え, 高齢者の医療, 保健, 福祉(介護)の分野でも活躍できる学識と経験も必要と考えている。そこで, 新しい学問への感受性を高めるために学生が自ら収集してまとめた知識を発表し, 体験する学生参加型授業形式を平成15年度より採用したのでその成果を報告した。

【方法】授業目標は高齢者や障害者の自立を支援するため, その一環となる歯科領域の機能回復などの歯科口腔介護システムについて, 歯科技工士の立場から理解することであった。初回は, 学生参加型授業の内容を説明後に学生を5名程度の小グループに分け, 授業テーマ(解剖, 摂食・嚥下機能, 義歯, 訓練, 介護の実際など)を用意した。第2回目以降はグループ単位の発表と全員での討論を, 最終回は体験型相互実習により構成した。発表準備の段階では, 図書館やインターネットが利用され, また, 教員が資料作成や発表技法について必要に応じて

放課後に指導し, 講義室ではチョーク&トークの発表に留まらないように視聴覚器材やIT関連機器を用意した。発表資料と文献引用状況, デジタルカメラによる授業風景の撮影, 授業終了後および卒業後のアンケート内容から, この授業の利点や問題点を検討した。

【結果および考察】歯科口腔介護に興味があると答えた学生は講義前の半数から講義終了後には95%以上に増加した。また, 準備や発表についてはたいへんであるという意見がほとんどであったが, 終了後は自分の担当テーマについて特に理解できたという意見が多かった。授業の様子やアンケート内容から, 学生は準備の段階で戸惑いを感じたものの, 発表前に教員が研究室で行った少人数指導, 図書館やインターネットの利用が有効であった。新しい授業形式の採用は技工領域に留まらず広く歯科医学を学ぶ上で, 学生の自主性を高める効果があったと思われる。